

a90086

メラノーマに対するニボルマブ投与中に発症した劇症1型糖尿病の一例

¹埼玉医科大学総合医療センター 内分泌・糖尿病内科

山崎 悠理子¹, 大竹 啓之¹, 秋山 義隆¹, 的場 玲恵¹, 坂下 杏奈¹, 阿部 義美¹, 森田 智子¹, 松田 昌文¹

選定用抄録本文

【症例】65歳、女性【現病歴】2015年6月当院皮膚科にて腔前壁メラノーマと診断され切除術を施行した。その後重粒子線治療、インターフェロンβ治療、ダカルバジン単剤療法を施行したが多発肺転移が出現、増悪した。2016年4月ニボルマブが開始された。血糖値は正常範囲で経過していたが、2016年8月、7コース目施行後、血糖487mg/dl、HbA1c6.7%と急激な血糖上昇を認め、9月当科紹介受診。劇症1型糖尿病疑いで緊急入院となった。【治療経過】入院時尿ケトン体陽性などから劇症1型糖尿病と診断、強化インスリン療法開始。原因としてニボルマブの関与が疑われた。【考察】ニボルマブは非小細胞肺癌に対しても承認され適応範囲が拡大している。非小細胞肺癌の有病率はメラノーマよりも高く、劇症1型糖尿病の発症の増加が懸念される。関連他科との連携が今後さらに重要になると思われた。